

中部整備局の総合評価

総合評価落札方式における予定価格帯別実施結果

予定価格区分	2005年度			2006年度			2007年度		
	全体 件数	最低額 者以外 の落札 件数	比率 (%)	全体 件数	最低額 者以外 の落札 件数	比率 (%)	全体 件数	最低額 者以外 の落札 件数	比率 (%)
7.2億円以上	20	4	20.0	24	12	50.0	26	19	73.1
3億円以上 ～7.2億円未満	47	5	10.6	74	20	27.0	68	26	38.2
2億円以上 ～3億円未満	79	5	6.3	138	15	10.9	206	25	12.1
2億円未満	107	9	8.4	677	38	5.6	955	63	6.6
総合評価 全体件数	253	23	9.1	913	85	9.3	1,255	133	10.6

07年度実施率93%

大規模、5割で逆転

中部地方整備局は、昨年度に実施した総合評価落札方式の実施結果を公表した。実施件数は、発注件数の93%に当たる1,255件。このうち、最低額応募者以外の落札件数は1,333件で逆転率は10・6%だった。また、予定価格帯別の逆転率をみると、3億円以上の工事は5割近くで逆転がみられたものの、3億円未満では1割に満たず、加算点が小さい小規模工事では逆転が起りにくい状況が顕著に現れた。

19日に開かれた総合評価標準型Ⅱ150件中48件で、同局が報告した。総合評価落札方式の実施件数は、05年度は253件（実施率18%）だったが、06年度は913件（同70%）と大幅に増え、07年度は1,255件（同93%）と発注案件の大半で実施された。

総合評価のタイプ別でみた07年度の実施件数と逆転件数は、▽高度技術提案型Ⅱ2件中0件▽標準型Ⅱ1103件中85件（逆

転率7・7%）。標準型Ⅱ5件中63件（逆転率6・6%）となり、加算点が多い大型工事ほど逆転が多い。また、05年度以降の推移をみると、23%（工事全体の平均落札率）に比べて、07年度は74・18%で、このうち実際にずれも契約には至っていない。

率が増加しているのに対し、2億円未満の工事は逆に減少している。そのほか、昨年度の低入札工事の発生状況は41件で、平均落札率は74・18%で、このうち実際にずれも契約には至っていない。また、特別重点調査の工事288件のうち特低価格入札対策として実施している施工体制確認の工事288件のうち特低価格入札調査の対象となったのは4件だったが、い

20年 5月 21日

建設工業新聞